

県職員のための『公文書管理・利用ガイドブック』

沖縄県公文書館 幸地 哲

当館は2003年2月、県職員向けの普及資料として『公文書管理・利用ガイドブック』を発行し全職員に配布した。同冊子は、歴史の証として将来大きな意味を持つであろう公文書を県民共有の財産として後世に引き継いでいくため、その作成者であり保管者である県職員に、日々の業務として行っている「記録の作成と保存」及び「記録の共有と公開」の重要性を今一度認識してもらおう契機としたいという趣旨で作成したものである。

発行のきっかけは、「現用文書を作成・収受する側の県職員が、保存期間満了後歴史資料として公文書館に保管されている公文書を過去の政策検証や新政策の立案に十分に活用しているだろうか、県職員一人ひとりにもっと公文書館の機能や役割について周知する必要があるのではないか」と私たち自身に問いかけたことから出たものであった。

内容は、「公文書保存の重要性」「沖縄県の公文書管理」「公文書館の利用」の3つの主題からなり、記録保存とアーカイブズ、評定所文書の教訓、公文書の歴史資料としての利用、現用文書の管理、廃棄決定と引渡、非現用文書の保存と利用、公文書館概要、閲覧室の案内、資料の閲覧方法、コンピュータでの資料検索、空中写真閲覧システム、ねっとOPA、普及活動及び利用案内の14項目について写真や図を多く取り入れわかりやすいものとなっている。

なお、上記ガイドブック発行に先立って2002年12月、同じ内容のパネル展示を沖縄県庁1階の県民ホールで開催した。(A5判、16頁、4フルカラー、8,500部印刷)

